



4月1日付け

福祉有償運送

許可が下りました！！

「さわやか」 『福祉有償運送』の 許可を受ける

・十月には、
 新法令施行予定・

福祉有償運送は、三十五年前位から、全国的に、細々と活動をしてきました。道路運送法第八十条によると、有償運送は、

緑ナンバーの取得が義務付けられ、違反すると、白タク行為として、罰せられることになっていきます。過去三十年間は、福祉有償運送は、この八十条の例外（グレーゾーン）として、認可され、運営されてきました。

平成十二年四月に介護保険制度が開始され、介護保険制度による福祉有償運送が開始されました。介護タクシーによる運送は、利用者は一割負担で、二百十三円ですが、事業者は、一回

二千三百三十円の収入になりました。「さわやか」が三〇〇円です。利用者は一円でも安い介護タクシーに移行しました。介護タクシーは、一回で二千三百三十円の収入があるので、雨後の竹の子のように、介護保険に参入してきました。

厚労省は、介護タクシーの保険料が、支出の大きな部分を占めるということで、平成十五年四月から、介護保険制度の改正をして、基本的には、介護タクシー制度を廃止しました。タクシー業界としては、介護タクシー制度がなくなり、身体介護のみで、一〇〇〇円の利用率になり、採算が合わなくなりました。

このような状況のなかで、『福祉有償運送』に対する、波風が高くなりました。平成十六年三月に、国土交通省は、「移送サービス・ガイドライン」という、

通達をだしました。このガイドラインは、「さわやか」のような、福祉有償を行なっている事業所に対する方向を示すものでした。

- ①市町村は構造改革のセダン型特区をとる。
- ②市町村に運営協議会をつくる。
- ③運転者は講習会を受ける。
- ④事業者は法人でないといけない。
- ⑤事業者・運転者・利用者は、陸運事務所に届け出る。等々の規制が懸けられました。

北九州市は、平成十七年十月六日、「市福祉有償運送セダン型特区」の認定申請を国交省にしました。同年十一月一日に北九州市計画課により、「運営協議会」設置にむけての説明会がありました。その後、運転者の講習会をはじめ、各種の書類の提出などが行なわれました。

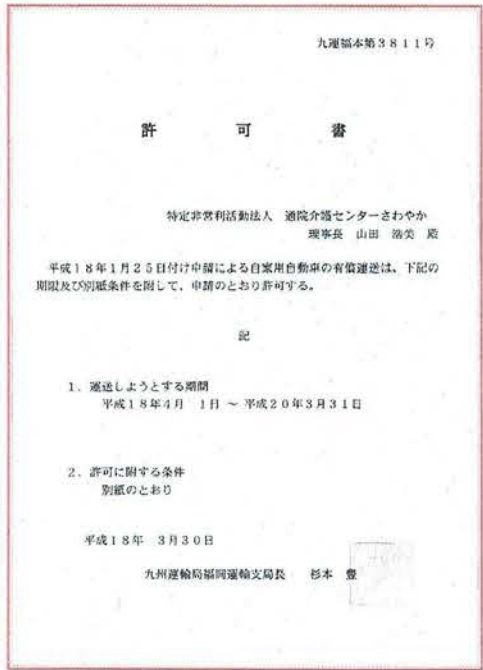
九州運輸局福岡運輸支局から、平成十八年四月一日付けで、福祉有償運送の事業所の許可が下りました。四月十四日に「さわやか」から、山田理事長、梶原副理事長が、福岡運輸支局まで足を運び、福祉有償運送の許可証を受領しました。その中で、福岡運輸支局の宮崎旅客課長は、「今回のこの許可証は、あくま

でもボランティア活動や街づくりの一環として活用していただきたい」と言われていました。北九州市での今回の許可証受領の事業所は八事業所でした。前述のように、今年十月には、福祉有償運送の法令化が実施される予定です。今のガイドラインは、十月までの暫定的なものです。どのような法令が出されるか、見守っていききたいと思えます。

編集後記

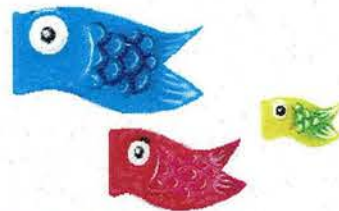
この時季、車をお持ちの方は一度や二度必ずといっていいほど泣かされる春の現象・黄砂！黄砂とは、主として乾燥地帯（戈壁砂漠・タクラマカン砂漠）や黄土地帯で強風により吹き上げられた多量の砂塵が上空の風に運ばれて日本、韓国、中国などで降下する現象をいいます。

（気象庁のHPより抜粋）
 先日、ニュースで『東京地方に六年ぶりの黄砂』という話を聞いてびっくりしました。エッ！黄砂って日本中まっているんじゃないの？知りませんでした。（Y）



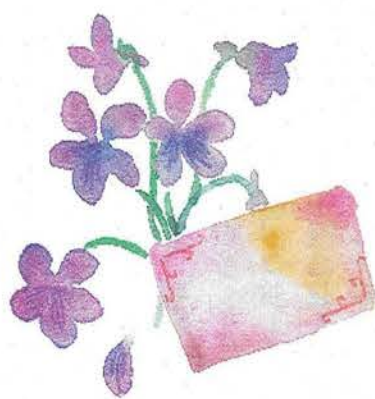
「チョット感動した話」

昨今のニュースは暗いことばかりでしたが、イナ・バウアーの荒川静香選手のオリンピック金メダル、そして、WBCでの王ジャパンの世界一と、久しぶりに明るいニュースが飛び込んできました。今回は、筆者がチョット感動した話を紹介します。黒田清著「記者魂は死なず」から三編抜粋します。



ペンネーム
城水 黎明 (投稿)

《ああ、そんなにかわいく笑わないで、別れる日はそう遠くないの・・・》
ダウン症のわが子を、生まれて一年で亡くした母は、その一緒に生きた日々を手紙に書いてきた。
生まれた時も、死んだ時も親を泣かせた子であったが、この子は何と大きなものを残してくれたことであろうか。私たちは、この子のおかげでどれほど成長したことであろうか。知ることもなかった世界を知り、感じなかったものも感じられるようになった。障害者に対する考えもかわった。やはり明夫は神の使い、わが家の宝物であった。最初は抵抗しながらも明夫を受け入れ、育てた私は、今はつきり言える。人間に、生命に、変わりはないのだ。



体の不自由な子が、いじめでクラス対抗の水泳選手に選ばれてしまう。当日、その子は学校を休もうかと思っただが、逃げてはいけないと母にさとされ、水泳大会へ。リーの最後に飛び込んだものの、体が前へ進まない。いじめっ子がやし始める。すると、突然校長先生が、服のままプールに飛び込んで、その子の側に立って、「がんばれ、がんばれ、」と声を掛けだした。シーンとした子どもたちも、今度は声をからして声援を送り始めた。その子は長い時間かけて、ゴールに入った。拍手をしながらみんな泣いていた。

ボランティアの皆様へ

《“大きい車”。そうなんです。たとえ軽自動車に乗っている方でも、人間、まして子供にとっては“大きい、お大きい車”なんです。そのお大きい車を、あなたがたは運転されているんです。車と相撲を取って勝つ人間はいないのです。いつも自分は大きい車に乗っているんだ、だから注意して、安全運転しなければならぬんだ、と肝に銘じて運転してください。自分の子供のことを考えて走って下されば、あまり無茶な運転は出来ないと思うのですが・・・》

